

青山サロン みんなで俳句をつくりましょう！



短歌・川柳・詩も OK

ハイクだより NO.3

2023年1月20日

夏井いつき先生のことばから

俳句を知ると人生が変わる！

俳句こそ人生だ！

- 俳句で脳トレ！老けない脳に。
- 俳句で人生が楽しくなる！
頭もよくなる！
- 俳句で脳が若返る！
認知症も防げる！

◆俳句とよく比べられるのが短歌。どちらも「韻文」です。「韻文」とは韻律を整えた文。要は、調べとリズムを持った詩です。五音と七音のリズムを使ったラップだと思ってもいい。ラップ特有の繰り返すリズムは、言葉を載せて生き生きとした感情を表現します。演歌の一説を思い浮かべてもいい。五音や七音などの歌詞が作る山と谷、それが日本人の心の抑揚を表現し、人の心をつかむ。



俳句の基本は「有季定型」

「有季」とは季語を入れること。「定型」とは、五七五のリズム。俳句とは、五七五を基本とした十七音と季語からなる世界最短の詩です。お茶にも緑茶や紅茶、チャイなどがあるように俳句にも、五七五のリズムを破ったもの（破調）、十七音ではないもの（自由律）、季語が入っていないもの（無季句）もあります。

どんな習い事でも、基本をしっかり身に着けることが大切。まずは「有季定型」の基礎から着実に身に着けていくことが大切。

俳句・短歌・川柳を新聞や雑誌などから紹介します。俳人や歌人以外は苗字のみです。

俳句のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語が入る(季節を表す魔法の言葉。)
- ③ 切れ字がある(や かな けり)

- ◆ おでん煮る鍋の凹みが愛おしく……ゆきぐに
- ◆ 出張のネクタイ外しおでん酒……清木
- ◆ 胸元に柚子を集めて一番湯……西川
- ◆ 鳥影の動く仏間の白障子……松浦
- ◆ 慈雨ありて生椎茸のバター焼き……高草
- ◆ 大根干す霧島嵐の真ん中に……市来
- ◆ 湯たんぽに昭和の温みありにけり……釈迦堂
- ◆ 冬野菜旨み深まる日和かな……甲斐
- ◆ ライオンの大あくびする冬日和……中園
- ◆ 農耕に明け暮れし父母日向ぼこ……藤原
- ◆ 読みかけの本そのままに去年今年……平原
- ◆ 顔剃りて鏡の中の寒さかな……渡辺
- ◆ 訃報欄友の名があり秋灯……小池
- ◆ 刈跡に軍手一枚落とす物……大杉
- ◆ 新造のフエリー出でゆく秋の潮……児玉
- ◆ 寒晴れや金属バットの打球音……花守
- ◆ 廃屋や柿と蜜柑の色つよし……鷺谷
- ◆ 間引き菜を包む地方紙文化欄……青山
- ◆ 手取り合い老々介護去年今年……馬場
- ◆ まとまらぬ思案あれこれ蜜柑むく……竹内
- ◆ 手作りのジャム届きけり小六月……木山

短歌のしくみ

- ① 五七五七七の三十一音
- ② 季語はいらない。

- 統一教会と癒着底なし日本の政権党の
矜持はいつか……牛路
- 箒目の玉砂利踏んで初詣
八十八回の春を迎える……押川
- お年玉かかげ喜ぶ孫たちの
顔をアップの初オンライン……三好
- 時折に娘夫婦のパトロール
変化なしごと安堵して帰る……小林
- 先人は孫子のおやつと植えたるに
柿を食べない近頃の子ら……高橋
- 何するといふあてもなくおそらへは
昨日と同じ今日のあり様……浜田康敬
- 稲刈りにトラクターの跡をついばめる
青鷺白鷺かぞえて九羽……江崎
- もう一杯どう……と自分にささやいて
へバスを搾るひとり家飲み……木村
- 窓際で老いたる妻の爪を切る
老々介護もまたよからずや……辻井
- クリスマス前のおもちや屋子ども達
目を輝かせサンタと巡る……長峰
- 地元紙にしかと包まれ大根は
赤子のように抱かれてこころ……津江

川柳のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語はいらない。

- ★ 核持てば何でもできる傲慢さ……大和
- ★ 軍拡で利権拡大ツケ民へ……小坂
- ★ 耳悲鳴メガネにマスク補聴器も……小笠原
- ★ 失業を増やし徴兵たぐり寄せ……中野
- ★ 何もせぬ猫が私のカウンセラー……柏原
- ★ 原っぱの草も炭素を固定中……ぼうちゃん
- ★ 紅ひいてデイの迎待つ私……劔
- ★ □達者耳二つともお留守番……吉野
- ★ 国会は辞任ドミノで幕を引き……田尾
- ★ 地獄にはあるが極楽めづらない……田中
- ★ バンクシー戦禍のビルに平和の絵……田村温
- ★ □口ナでも心のマスクはずさうよ……荻原



青山公民館の玄関「青山サロン ポスト」

早速の投句ありがとうございます。みなさんから
の投稿をお待ちしています。俳号(お名前)もお
忘れなく！！

渥美清と俳句② 森英介『風天 渥美清のうた』文春文庫より

渥美清は 1996 年 8 月 4 日、転移性肺がんで亡くなった。渥美の死後、「アエラ」は、「追悼渥美清さん 裸の心見せた寅さんの 45 句」(1996 年 8 月 19・26 日号)を発行した。月刊「俳句朝日」には、「渥美清さん逝く 絶唱・フーテンの寅さん俳句 45 句 繊細な感受性とサービス精神」という記事が載った。

俳優渥美清が詠んだ俳句が初めて掲載されたのは、渥美の死後 4 年目の2000年2月、『カラー版日本大歳時記』(全5巻)だった。全体の掲載季語4千2百。5巻を通して約3万に上る例句は全国7百の俳句結社から優れた俳句を募って選ばれた。【 お遍路が一行に行く虹の中 】

このお遍路句が次に紹介されたのは、作家村上護が2005年 1 月に著した『きょうの一句 名句・秀句365日』の 4 月 7 日の渥美清のお遍路句には次のような評文がついている。「全国を渡り歩くフーテンの寅もお遍路の一種か。寅次郎といえば渥美清、渥美清といえば寅次郎というほどに国民的人気を博したキャラクターだった。映画「男はつらいよ」は大いに当たったが、渥美本人は山頭火のドラマに出演したがっていた。そして四国のお遍路にも関心を示しての一句だろう。へんろ道は細いから一行に行くことが多くなる。図らずも空にかかった虹の中に行くというのは詩情たっぷり。俳号は風天。【股ぐらに巻き込む布団眠れぬ夜】【乱歩詠む窓のガラスに蝸牛】などの句もある。」

詩人清水哲男のインターネットのホームページ「増殖する俳句歳時記」2000年 10 月 16 日付で、渥美清の【 赤とんぼじっとしたまま明日どうする 】が取り上げられていた。清水のコメントには、「三木露風の童謡「赤とんぼ」を思い出す。三番の結び。「…………、止まっているよ、竿の先」。露風の詩はここまでで止めているが、掲句はもう一步踏み出している。お前、明日はどうするんだい。そういつてはナンだが、何かアテでもあるのかい。この優しい呼びかけは、もとより自身への呼びかけである。お互いに、風に吹かれて流れていく身なのだからさ。と、赤とんぼを相棒扱いにして呼びかけたところに、三木露風の童謡「赤とんぼ」とはまた違う生活感のある人間臭い抒情味が出た。作者はご存じ映画「男はつらいよ」シリーズで人気のあった寅さんだが、それを知るとどうしても映画に重ね合わせて読んでしまう。止むを得ないところだが、しかし、そういうことを離れて句は素晴らしい。「どうする」の口語調がとりわけ利いている。」とある。

渥美清はその生涯にいくつの句を作ったのか。「アエラ句会」で45句。長野県小諸市の「渥美清こもろ寅さん会館」に48句。寅さんの生まれ故郷、東京・葛飾柴又の「葛飾柴又寅さん記念館」や母校、東京都板橋区立立志村第一小学校に42句。「話の特集句会」事務局から渥美清の俳句として 134 句。ダブりを整理すると、風天俳句は全部で 182 あった。(つづく)

青山の作品コーナー その②

※年末年始に一句

青山 二休

◆宝くじ今年こそはと初詣

◆冬空に今年の幸せ願かける

俊 幸

◆大晦日満ちたるものなきこの一年

◆「減量」と年初の誓い力尽き

◆年始め今年こそ今年こそはで五年

過ぎ

◆お正月また食い過ぎたと腹を撫で

※お墓参りで一句 俊 幸

◆墓参りご先祖様の叱る声

◆ご先祖の評価はきつし現人うつむいて

◆生まれしは何の使命が墓に聞く

※大根や高菜の収穫で 俊 幸

◆農作業慣れぬ足腰悲鳴上げ

◆地下足袋よふらつく脚あしに力貸せ

※退職して二〇年を迎えた令和5年初春。静かな冬の毎日。祭日のよう。早出も夜勤もない日を送る老人。健康とボケを防止する。トキメキ・感動を覚える為一句を作る。移りゆく庭を見て。 川崎 年治

◆空元気腰をのばして老いを知る

◆世は蔓延村には来てないコロナ

菌ウイルス

◆浜の星渋滞中青山の空

◆庭の植木俺と主張する赤・白・黄

(赤は椿、白は梅、黄はフキの花)

青山 二休

◆お年寄り文句たらたら大晦日

◆極寒の冬にたばこは外でと追い出され

され

俊 幸

◆ひもじさで取った柿に顔しかめ

◆年齢を重ねるたびにサイズアップ

◆顔洗い歯磨きしても行く処あてなし

◆騙されたかと分かっているも

またニューモ

※冬の農作業で一句 恣 弘

◆支柱立て三つ穴ごしに百メートル

◆強風で作業段取り練り直し

◆日曜日家族総出でビニル張り

◆待望の雨の湿りで種を入れる

◆万粒の種が実をつけウン千本

好々猫

◆目のぼやけ白内疑うセピアの黄砂

